

令和2年度 教職員評価の結果と考察

鹿児島竜谷学園 幼保連携型認定こども園 鴨池幼稚園

			4	3	2	1
1 教育目標 (人)						
まことの保育	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	・ まことの保育の実現に向けて全職員が一体となって意欲的に学び・実践していこうとする姿勢が育ちつつある。「まことの保育」について職員全員で取組んだことで昨年度より実践化できていると実感できる。	3	5		
生きる力	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■		5	3		
共に育ち合う	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■		8			
主題・お約束	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■		7	1		
2 教育課程の編成・実施・反省 (評価)						
保育の充実	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	・ テーマ研修や研究保育をとおして課題意識を持ち、日々の教育保育に結びつくような実践的な研修ができた。	3	5		
工夫・改善	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	・ 指導教員を中心に初任者研修を進めることで新規採用者の資質向上を図ることができた。	4	4		
5領域の指導	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	・ 幼小接続については更に理解を深めていく必要がある	2	6		
心の教育と知育	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■			8		
小学校への接続	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■		2	3	3	
3 保健・安全・食育・環境						
保健指導の充実	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	・ 健康・安全に対する職員の意識は高まってきている。今後、災害時の緊急体制の一層の充実と職員の防災意識への高めていく必要がある。	6	2		
危機管理	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	・ コロナウイルス対策を講じながら日々の教育課程を推進してきているが、今後も十分な対策を講じる。	3	5		
安全対策・環境	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■		5	3		
健康安全	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■		6	2		
食育指導の充実	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■		7	1		
4 学級経営						
創意工夫	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	・ 学年主任と担任、担任と補助教員が相互に連携することで学級経営の充実を図るように努めてきた。	5	3		
環境構成	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	・ 学年主任会を開催することで学年間の連携や主任としての自覚も育ってきている。	3	5		
連携・協力	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	・ 個別の支援計画に基づいて取組を進めているが、年々、対応が難しくなっている印象が強い。	3	5		
特別支援教育	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■		2	6		
総合的な指導	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■		4	4		
5 家庭や地域社会・小学校との連携						
家庭との連携	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	・ 幼小連携の必要性がまだ職員全体に浸透していない。	2	6		
信頼の確立	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	・ 感染症拡大に伴い地域との交流が停滞していたが、ビデオでの交流など工夫を凝らしながら活動を進めた。	5	3		
地域からの信頼	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	・ 地域の人々の本園への関心は高く協力的である。		8		
小学校との連携	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	・ 学校や地域、家庭との連携を更に進める必要がある。	8			
教育力の活用	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■		7	1		
6 園務処理						
適切な事務処理	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	・ 組織や職務内容の明確化・意識化に努めた結果、職員は職責感を持って職務にあたっている。更に職位や職務に応じた職務遂行能力を高めていく必要がある。	5	3		
適切な記録	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	・ 分掌業務に対して自覚と責任感が芽生えてきている。	3	5		
園務分掌の処理	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	・ 各表簿管理や勤務処理は適正に処理されている。	3	5		
提出物の処理	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■		2	6		
勤務処理	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■		3	5		
7 服務態度						
接遇	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	・ 職員は誠実に日々の業務に取り組んでいる。	8			
勤務態度	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	・ 職場の雰囲気は良いが、馴れ合いにならないように配慮していく必要がある。	7	1		
協調・協力	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	・ 新規採用者三名は自覚をもって日々の教育・保育に取り組んでいる。今後も「報告」「連絡」「相談」の徹底と研修を積ませることで一層の資質向上を図りたい。	4	4		
報・連・相	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■		2	6		
公正な勤務態度	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■		1	7		
資質向上	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■		2	6		

4 3 2 1 1:ほとんどできなかった→2→3→4とても良くできた

8 自己評価 (反省) の総括

- 職員は、「自分の仕事内容や役割を自覚して働く意欲が高まった」「今後も積極的に研修等に参加して専門性や技能を身に付けて保育の質の向上に努めていきたい」「積極的に園務に取り組んでいきたい」「自分の園務分掌を意識して、協力して進めていくことができたが、積極性が足りなかった」など、自らの職位や職責を自覚しながら日々の業務に取り組んでいる。今後更に個々のステージや適正をしっかりと把握して一層のキャリアアップに取り組ませたい。
- 今年度はコロナウイルス感染症のために園運営に多くの影響がでたが、職員が一体となって協力して乗り越えることで職員相互の連帯感と教育者としての自覚を高めることができた。これらの経験を今後の教育課程の充実改善や園運営にいかすようにしたい。
- 全職員が課題意識を持って研修に取組、その成果を日々の保育の中で実践していくように努めたことが資質向上に繋がっている。年々、職員の意欲や課題意識に大きな変容が見られるようになってきている。
- 子ども理解に努め、一人一人の主体性を大切にした教育・保育の実現に向けて取組んで行こうとする雰囲気が醸成されつつある。今後も「まことの保育」の実践者として自ら学び、職員の育成に努めていきたい。

